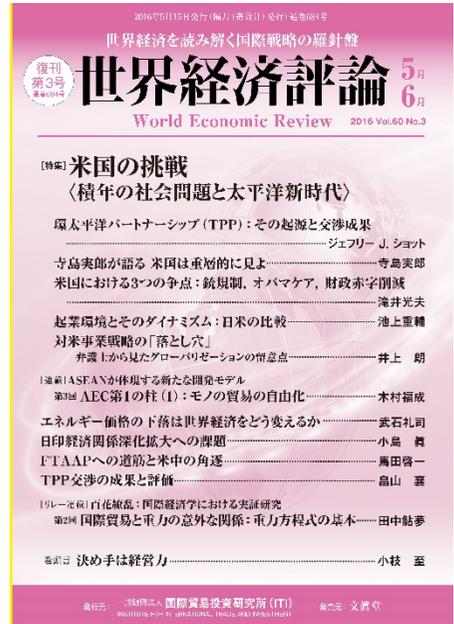


本論文は

世界経済評論 2016年5/6月号

(2016年5月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

決め手は経営力

日産自動車株式会社相談役 小枝 至

2016年は年初より、世界で政治面、経済面での不安定な状況が続いている。この対応に緊急を要することは言うまでもない。

一方、少し長い目で見ると働く人の減少（人口減少）が見込まれる日本の経済力をいかにして維持、向上してゆくかが重要だと思う。世界で第3の経済力を持つ日本が格差、高齢化、生活環境の改善にバランスを取って解決できれば、不安定化している世界に貢献できると考えている。そのために、何より必要なのは、日本の経済力が、より強くなることである。

どうやって日本の経済力を向上するか。私は経済の専門家ではないので、長い間働いてきた自動車産業を例として述べてみたい。まず、自動車の需要は新興国を中心に伸び続けると考えられている。根拠は人口増（世界の人口は2010年の69億人から2050年には96億人と推定されている）と新興国の経済発展である。しかし、自動車には解決すべき課題が二つある。地球温暖化防止のためのCO2の削減と安全である。台数が増えるなかでCO2削減を行うには、2050年頃までに台当たりの発生量を2000年比で90%削減する必要がある。もう一つの課題は安全であるが、世界の交通事故の死者数は、統計のある2010年で124万人（日本は

2014年、4000人）で、毎年世界大戦並みの人命が失われている。運転マナーの向上や交通インフラの整備はもちろん重要であるが、車両自体の安全機能の充実も必須である。

この中で日本の自動車産業が勝ち残っていくには、先進技術を世界に先駆けて開発し、環境、安全対策で世界をリードすることが必要である。電動化（種々の電池の開発を含む）によるCO2削減対応や安全のための自動運転の技術開発等は、現在、他国を凌駕しており、日本車のブランドが高いこともあり、比較的順調な成長を続けている。しかし、さらなる努力を要する点も多々ある。市場拡大する新興国への対応、異業種メーカー（IT、電機）の参入などである。新たな参入者に対しては、対抗するだけでなく、協力、協業も有力な手段である。先進技術にも増して重要なのは日本の強みを生かし、世界に通用する経営を行うことである。

TPPやFTAが進んでいることもあり、国際間の競争は、益々激しくなっている。農水産、サービス産業を含め、日本の多くの産業が勝ち残り、日本と世界に貢献するには、世界に認められている技術力、現場力を生かしつつ、必要ときには、迅速な選択と捨象を行える経営力が何より重要であると考えている。

（こえだいたる）